
スキスキスキ!!

紫華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スキスキスキ！！

【Nコード】

N 6 7 3 3 P

【作者名】

紫華

【あらすじ】

「惚れた。」

詐欺師と呼ばれる少女が人生初の恋をした。

庭球女体化、ブン太×仁王♀のお話。

微妙にスキップ・ビートと混合ですが、知らなくても全然平気です。

ぜろ

注意！！

この作品は庭球キャラが女体化しています。

許せないという方は戻ってください。

読んでから気分を害されても責任はとれません。

大丈夫、OKという方は設定がありますので下へ。

ニオウミヤビ
仁王雅

- ・身長163センチ、体重はY「秘密じゃ」……………だそうです
- ・女の子
- ・腰までのストレートな銀髪（↑地毛）に猫のような金色の瞳
- ・美人さん
- ・元々かなり細いが悪い意味で着痩せしている（↑胸が本当はDなのにBよりも小さいくらいにしかみえない）
- ・男遊びがかなり激しい

ユキムライチ
幸村市

- ・身長160センチ、体重は「言っわけないよね?」……………はい
- ・女の子
- ・見た目はまんま原作だけど髪が肩よりちょっと長い
- ・胸はB
- ・見た目おしとやか
- ・中身は魔王

芥川シロ（アクタガワシロ）

- ・身長152センチ、体重40キロ
- ・女の子
- ・原作よりちょっと髪長い以外はそのまま
- ・ブンちゃんに一目惚れ
- ・幼児体型なため胸はA

向日岳^{ムカヒガク}

- ・身長146センチ、体重「言っなよ!」……………はい
- ・女の子
- ・まんま原作
- ・男っぽい名前がコンプレックス
- ・胸はA

シライシクラ
白石蔵

- ・身長166センチ、体重「毒手くらわせられたいん?」……………すみませんでした
- ・女の子
- ・原作まんま、髪は背中真ん中くらいまで
- ・胸はC

だいたい女の子の設定はこんな感じ。
男の子はそのまんま。

関係図

岳↓侑士↓仁王
白石↓千歳↓仁王
跡部↓仁王

シロ↓ブン太

仁王↓ブン太（のちブン太×仁王）

な感じ？

いち

「みーやびっ！！」

かるやかな声とともに市は親友に飛びつく。

「市、おはようさん。」

「おはよ。」

仁王雅。

幸村市。

二人は正反対な人物だ。

男遊びが激しく、とつくに百人斬りを達成していると噂される雅。

大和撫子とはこのような少女かと思わせる市。

まあ、実際はかなり暴君な性格をしているのだが。

この二人が親友であることは立海大付属中学最大の謎とまで言われ

ている。

「雅。お弁当を忘れて行ったでしょう。」

「ヒロ。」

そこに柳生が加わる。

「柳生おはよ。」

「おはようございます、幸村さん。」

にこやかに笑いかける市。
が、その内心は。

ふざけんなよ、柳生。

なんで私と雅の時間を邪魔しやがるんだよ。

……………お怒りのようである。

ちなみに、柳生は雅の幼なじみだ。

生まれた時から小3まで共に過ごしていた。

小4からは雅が九州に引っ越したため地理的には疎遠になったが、連絡は常にとっていた。

そして、中学にあがる年に雅がまた戻ってきたというわけだ。

「そう言えば茜さんから聞きましたよ。また恋人が変わったそうですね。」

「あー……。姉ちゃんは相変わらずお喋りやねえ。」

「ほどほどにしておかないといつか刺されますよ。」

柳生の言葉に雅はケラケラ笑う。

「へーきじゃへーきじゃ。」

仁王雅14歳、春。

未だ恋というものを知らなかった雅。

その雅が恋に落ちたと市が聞くのはまだもう少し先の話。

に（前書き）

この話にでてくるスキップ・ビートは蓮キヨです。

絶対に尚キヨじゃないと嫌！！という方はお戻りください。

ついでに捏造設定多数です。

に

その日、雅はひとりで買い物に出かけていた。

「ねえねえ、俺たちと遊ばない？」

そんな声をかけられたのは、道を歩いている時だった。
三人の男たちが雅をにやにやしながら見る。

気色悪…………。

ちゅうか、今時そんなナンパする奴おるんか…………。

少し論点がズレているような気もする。

「遠慮する。」

雅が言うと、男たちの中の一人が雅の腕を掴む。

「ちょっとくらいいいでしょ、ね？」

「離せ言つとるじゃろ。」

雅はその手をパンと払う。

「おいー、俺くらいレベルの高い男めったにいねえぜ？」

普通の女の子ならばついて行ったであろう。
確かに、整った顔立ちの男たちである。
しかし、雅は普通ではなかった。

父方の祖父に世界の誇る俳優クー・ヒズリ。
父方の祖母には世界的なモデルジュリエナ。
父は世界的に有名な俳優敦賀蓮、本名久遠・ヒズリ。
母も世界的な女優である京子、本名キョーコ・ヒズリ、旧姓最上。
母方の祖母は有名なデザイナー最上リサコ。

とまあ、雅の周りには普通でなかった。

両親や祖父母は言うまでもなく美形ばかりだし、その知人も美形が多い。

自分自身や姉弟も人並み外れた美形なのだ。
耐性はかなりついている。

「お前ら程度の顔で調子乗るんじゃないか。」

ふんつと雅は鼻で笑う。

「てめっ、このアマ!!」

キレた男のひとりが雅に殴りかかる。
雅が反撃しようと構えた時だった。

「わりいわりい、待ったかよい? つーかお前ら誰? 俺の女になんか用?」

ひとりの少年が現れた。

少年は雅の肩を抱くと、男たちを睨みつける。

「チツ。」

男たちは舌打ちをすると去って行った。

「……………おまん、誰じゃ?」

雅は首を傾げて少年を見る。
赤色の髪に大きな瞳の少年。

「俺？丸井ブン太。シクヨロ。」

「その丸井ブン太はなんであたしを助けたん？」

「女が殴られそうになってんを見逃すわけにいくかよ。」

「あれくらい撃退できたぜよ。」

雅の言葉は嘘ではない。

幼い頃から雅たち姉弟は護身術を習わされていた。
子どもたちを溺愛している両親によって。

「できるかできねえかじゃねえんだよい。俺が見過ごせねえの。」

そう言って笑い、ブン太は去って行った。

『市!!好きな奴ができたなり!!』

「…………へえ。どんな奴?」

『すごいかっこよかったんじゃ!!』

その夜かかってきた電話に市は、相手の男を呪ってやろっかと思っ
たそうだ。

に（後書き）

捏造設定多数です。

庭球側は、まず仁王のクラスとジャッカルのクラスを交換します。
クラスメイト知らないってのはおかしいので（^^;）

雅は普通の女子がキャーキャーいうイケメン（もう死語だったりす
んのかな？）には全くといっていいほど興味がないのでブン太の存
在を知りません。

ブンちゃんは雅のことを知っていますが、あまり興味ありません。
仁王のお父さんの職業も都合上違います。

あと、苗字も違います。

対外的には仁王雅ですが、本名は雅・ヒズリ。

そんなんが実際にできるのかどうかは丸無視です（笑）

スキビ側は、キョーコの母親の名前と職業が捏造です。

ちなみにこの話では和解済み。

見事な娘バカ孫バカと化しています（笑）

キョーコのお父さんは実は有名な建築設計士だったという裏設定。
キョーコが生まれる前に事故で他界。

捏造設定満載ですが、これからもよろしく願いますm（__）
m

さん

「で。その好きな奴ってのはどんなの？」

次の日登校した雅は市に質問攻めにされていた。

「赤い髪？に変な言葉づかいの奴。」

仮にも好きな人だというのにその言い方がいいのか。などつつこんではいけない。

「ふーん。赤い髪に変な言葉づかい、ねえ。」

実は市には心当たりがあった。

男子テニス部の丸井ブン太。

レギュラーで、人気も高い。

何故市がブン太を知っているのか。

それは、自身が女子テニス部の部長であり、幼なじみの真田弦一郎が男子テニス部の部長をやっているからだ。

ちなみに雅も女子テニス部の部員だったりする。

完璧な幽霊部員であるが。

実力はあるのにもったいないといつも市は思っている。

「丸井ブン太、いうたかな。市、知つとる？」

雅のほうが背が高いというのに、上手に市に上目遣いをする雅。知らないと言おうとしていた市はうつと言葉につまってしまった。

こんなに可愛い雅を丸井なんかに渡したくない！！
雅はずっと私といればいいのに！！

誤解のないように言っておくが、市は恋愛感情で雅が好きなわけではない。

それに市には彼氏がちゃんという。

母親や姉のような心境で雅を大事に思っているのだ。

「あー、うー……。」「

唸っている市を雅は不思議そうに首を傾げながら見る。
経験することはとくに経験しているのに、いつまでも純粹なところがあるから困るのだ。

「どうなさったのです？。」「

そこにやってきたのは柳生。

「あ、ヒロ。なあ、丸井ブン太っちゅう奴知つとつ?」

「丸井くん、ですか?彼ならば、うちの学校にいますよ。私と同じテニス部ですから。彼がどうかしたのですか?」

柳生の言葉に目を輝かせる雅。

「あんな、不良に絡まれとつたんを助けてもらつたんじゃ。ほんでな、惚れた。」

「そうですか……つてええええええええええええええええ?!」

「柳生柳生、紳士キャラが崩壊してるよ。」

市の声も聞こえないほどに柳生は動転していた。

雅を妹のように可愛がっている柳生。

お互いの身内からはシスコン（実際には兄弟ではないが）とまで言われているほどのだ。

「惚れたって言いました?!」

雅の肩を掴んでガクガクと揺さぶる。
若干困惑しながらも雅は頷いた。

「ま。」

「「ま?。」」

「丸井くんには雅を渡しませんよ!」

そう叫ぶと、あっけにとられている雅と市を放ったままどこかへと走って行ってしまった。

「……ヒロ、どうしたんじゃ?」

不思議そうな雅に市ははあっとため息をついたのだった。

さん（後書き）

市の彼氏さんは真田じゃありません。

三強は掛け算よりも足し算が好きなんで
↑

よん

思い立ったが吉日。

その日のHRの時間に雅はB組へと向かった。

「おつた！！丸井ブン太！！」

いきなり大声をあげた雅にクラス中の人間が注目する。
ブン太も目を丸くして雅を見る。

「おま、この前の……………」

そんなブン太の目の前まで歩いて行った雅はにいつと妖艶に笑った。

「惚れた。」

「はあっ?!!」

「じゃけえ、覚悟しときんしゃい?」

背伸びをしてチュッとブン太の頬にキスをして雅は去って行った。

うつすら頬を赤く染めているブン太は呆然としていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6733p/>

スキスキスキ!!

2011年10月7日00時35分発行